

Christmas Concert

～オルガンとピアノで彩るクリスマス～

オルガン (JOHANNUS)

吉田 文
AYA YOSHIDA

トーマス・マイヤー＝フィービッヒ
Thomas Meyer-Fiebig

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

「メサイヤ」より

第44番「ハレルヤ」

トーマス・マイヤー＝フィービッヒによる
ピアノとオルガンの為の編曲 (2026)

世界初演

ピアノ 武内 裕美
YUMI TAKEUCHI

2026年12月20日(日)

開場 10:00 開演 10:30～(約1時間)

会場 武内病院 1階 エントランス(ロビー)
〒514-0057 三重県津市一色町215番地1

入場無料

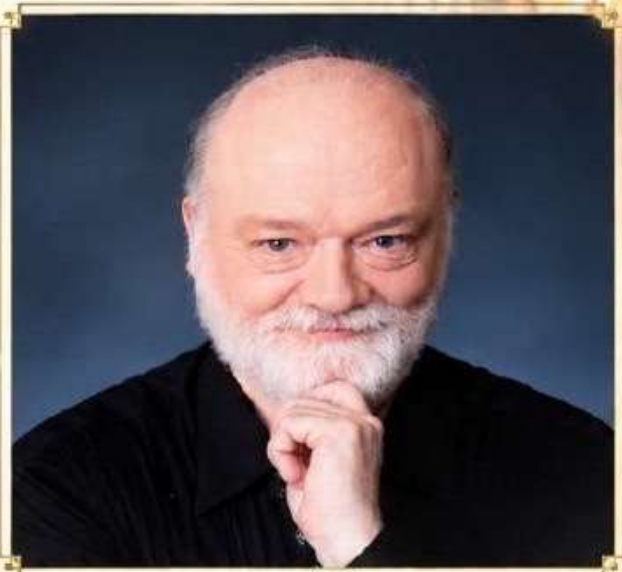
企画・監修 武内裕美
[FEATHERFEW HOUSE MUSIC ♪♪]

Profile



オルガン
吉田 文
AYA YOSHIDA

パイプオルガニスト・教会音楽家
名古屋市出身。中学卒業後ドイツへ渡り、
17歳でドイツ国立ケルン音楽大学カトリック
教会音楽科への入学を許可される。パイプオルガン、
即興演奏、ピアノ、声楽、合唱・オーケストラ指揮、
グレゴリオ聖歌、典礼学など、教会音楽を総合的に学ぶ。
オルガンをW. シュトックマイヤー、グレゴリオ聖歌を
ベネディクト会マリア・ラーハ修道院のW. ヘッケン
バッハ神父らに師事。ドイツ国家資格A級カトリック
教会音楽家を取得後、同大学大学院演奏家課程を修了し、
最高演奏家資格Konzertexamenを取得。
ドイツでは19年間にわたり教会音楽家として活動する
一方、オルガニストとしてベルリン・コンツェルトハウス
をはじめ、ドイツ、ポーランド、ルクセンブルクなど
ヨーロッパ各地の音楽祭や演奏会に出演。歴史的オルガン
から現代の楽器まで、多彩な楽器で演奏経験を重ねる。
帰国後も国内外でソロ、オーケストラや合唱との共演など
幅広く演奏活動を展開している。
名古屋女子大学准教授を歴任後、現在、名古屋音楽大学、
南山大学、金城学院大学非常勤講師。2011年より愛知県
芸術劇場「パイプオルガン・ブランチコンサート」を
主宰。「名古屋オルガンの秋」代表。名古屋市民芸術祭
特別賞、同芸術祭賞（本賞）、名古屋市芸術奨励賞を
受賞。長年教会音楽家として培ってきた経験をもとに、
クリスマスをはじめとする教会暦の音楽を大切なレパート
リーとし、時代や国境を越えて受け継がれてきた音楽の
喜びと、オルガンの豊かな響きを伝えている。



トーマス・マイヤー＝フィービヒ
Thomas Meyer-Fiebig

ドイツ・ビーレフェルト生まれ。マリエン教会の牧師を
父に、幼少期よりパイプオルガンと教会音楽に
親しむ。ドイツ国立デトモルト音楽大学にて作曲、
学校音楽、音楽教育を学び、作曲をヨハネス・ドリースラー、
ギーゼラー・クレーベに師事。レムゴー音楽学校で教鞭を
執る一方、聖ニコライ教会で教会音楽活動に携わる。
1978年来日、国立音楽大学で作曲を指導。1989年教授、
1996年より同大学大学院作曲専攻マスタークラスを担当し、
長年にわたり後進の育成に尽力した。2015年退任、
国立音楽大学名誉教授。
作曲家として、オルガン曲、室内楽曲を中心に、器楽、
声楽、和楽器を含む多彩な作品を発表。とりわけ
パイプオルガンは創作活動の重要な位置を占め、
その作品は国内外の演奏家により演奏され、ドイツ
および日本の放送局でも紹介されている。
J.S. バッハ、マックス・レーガーの作品研究にも長年
取り組み、バッハの未完のオルガン作品の補作や無伴奏
ヴァイオリン作品のオルガン編曲を手がけ、CD「Fantasy 1720」
に世界初録音された。またレーガーの未完《レクイエム》
WoO V/9「Dies irae」および《ロンド》Op.147を補作し、
《レクイエム》補作版はドイツで出版されている。
コンサート・オルガニストとしても日本、ドイツを中心に活動し、
中世から現代までの幅広いレパートリーを演奏。作曲、教育、
演奏の三領域にわたり、日本とドイツを結ぶ音楽活動を
続けている。令和元年度名古屋市民芸術祭特別賞受賞。